

# Toriko

トリコ



## 車でのアクセス

- 福井方面から  
中部縦貫自動車道 大野ICから  
国道158号線経由で車で約35分
- 岐阜方面から  
中部縦貫自動車道 白鳥ICから  
国道158号線経由で車で約30分

## 電車でのアクセス

福井駅からJR越美北線で越前下山駅、または九頭竜湖駅を下車  
(約1時間40分)

毎年、和泉の春をいろどる「はなもも」。  
花言葉は「あなたに夢中」「恋のとりこ」です。  
福井のいちばん山奥にある小さな里、和泉。  
自然いっぱいこの里のとりこになって欲しい。  
そんな想いで、「いずみのほん」をつくりました。



HP



f

和泉自治会

ここに

生き続けられるために

春 まぶしい新緑と、山菜  
夏 清らかな川の流れと、スイートコーン  
秋 黄金色の紅葉と、きのこ・かぶら  
冬 白銀の雪と、なれずし  
四季折々の顔を見せる大自然と  
美味しいものいっぱい  
和泉  
ここが私たちがやさしく包み込む故郷です。





**林道**

和泉スキー場に向かう途中にある「広域林道奥越線」は、26.5kmと非常に長く、大野市下打波地区に抜けます。眺望が開けた箇所も多く撮影し甲斐がありますよ。ちなみに、和泉地区側は「終点」、下打波地区側が「起点」です。

福井和泉  
スキー場



花桃  
回廊



**前坂キャンプ場**

これがキャンプ場の見本といえるキャンプ場です。石徹白川での川遊びや魚の掴み取り、バームクーヘン作りやドラム缶風呂も体験できます。自然豊かなキャンプ場で素敵な写真を撮って、一生の宝物にしてください。



**石徹白(いとしろ) ダム**

石徹白川に建設された自然越流方式のアーチ重力式コンクリートダムで、貯水された水は最大約3mある集水トンネルによって、九頭竜湖に注水しています。冬季(12月頃~4月頃)は、県道が通行止めになります。



**メタセコイア**

「オートキャンパーズぐりゅう」内にあるメタセコイアです。見頃となる11月中旬には、施設内に立ち入ることができないため、国道158号線「多母谷橋」から撮影するのがベストです。九頭竜湖の紅葉が見頃になってから10日後くらいに見頃を迎えます。



**蝶の水**

岐阜県郡上市白鳥町と大野市の県境にある「油坂峠」に湧き出る清水です。国道158号線を中部縦貫自動車道に入らず、そのまま国道を3分程度走ると、左側に案内看板が見えます。そこから徒歩15分程度、標高800メートルの山頂付近にある蝶の水(句碑)に至ります。

**夢のかけはし**

通称「夢のかけはし」と呼ばれている吊橋は、駐車場から撮影するだけでも画になりますが、対岸から撮影したり、「九頭竜レイクサイドモビレージ」で湖面付近から撮影したりと、撮影スポットが無数にあります。



油坂出入口



中部縦貫自動車道(令和8年春 開通予定)

九頭竜  
レイクサイド  
モビレージ

九頭竜湖

穴馬糸社



**九頭竜ダム**

「九頭竜ダム」は、日本のロックフィルダムの中で有数の大きさを誇るダム湖「九頭竜湖」を持っています。深い緑色の湖面が印象的で、風の穏やかな晴れた日は、山や空が湖面に反射し、紅葉時期は特にオススメです。

天狗岩

127

IC 九頭竜

新島ダム

九頭竜  
まいたけ



おすすめ

和泉の秋はここへ!  
**紅葉スポット**

自然豊かな和泉には、美しい紅葉スポットがたくさんあります。誰もが知る名所から、地域住民だけが知っている“本当は教えたくない”スポットまでをご紹介します!



**霧降(きりふり)の滝**

大野市と旧和泉村との境界近くのパーキング場にあります。落差はありませんが、霧が降りそそぐほど水量が多いことから名づけられました。「谷間のやすらぎ」として地元民にも親しまれています。



**フレアール和泉**

百名山「荒島岳」のふもとに位置する、大自然に囲まれた景観を生かして建てられた癒しのホテルです。和室、洋室、パーラウンジがあり、敷地内にはわんちゃんも泊まれるコテージも！肌優しい天然温泉もあり、温泉は全国でも数少ないアルカリ性単純温泉です。日帰り温泉も可能です。



**山原(やんばら)ダム**

直線重力式コンクリートダムで、ここで取水された水は、「鷲ダム」から取水された水と合流して、湯上発電所の発電に利用されています。「石徹白ダム」の下流に位置し、石徹白川の残流水を貯留しています。



**九頭竜国民休養地**

大野を代表するまつり、「九頭竜紅葉まつり」が行われる、秋の並木が印象的な施設です。「パークホテル九頭竜」では、恐竜をモチーフにした客室に泊まり、敷地内の「HOROSSA!」で化石発掘体験をお楽しみください。



**恐竜**

「恐竜エキスポふくい2000」開催の際に、叫びながら動くティラノサウルス親子が設置されました。お隣、岐阜県郡上市の郡上ラボで製作され、20年以上経った現在も現役です。冬季は見ることができないのでご注意ください。

# くずりゅう 九頭竜紅葉まつり



地域住民の「和泉の美しい秋の風景をいろんな方に知ってほしい」という想いからスタートした「九頭竜紅葉まつり」。毎年、和泉の紅葉が一番美しい10月下旬、2日間にわたり開催されています

世代がつかないできた、  
守り続けたいまつり。

この地区がまだ和泉村だった1980年（昭和55年）に始まった「九頭竜紅葉まつり」。おまつりが始まったころは小さな規模での開催でしたが、回を重ねるにつれ大きく、会場の「九頭竜国民休養地」には数多くのテントが並び、地元特産のきのこや野菜などが味わえると毎回大盛況です。爽やかな秋空のもと、ステージでは地域の方がこの日のために練習を重ねてきた踊りや太鼓を披露。今では福井の秋の風物詩として、多くの人に愛されるおまつりに成長しました。



新型コロナの影響で3年ぶりの開催となった2022年の様子。県内外から「九頭竜紅葉まつり」のファンが多く来場。久しぶりに味わう和泉の秋の味覚や、美しい紅葉に大満足していました



## 「九頭竜紅葉まつり」を盛り上げる和泉の人たち

和泉小学校  
武田宜弘教頭先生



小学生は伝統芸能である「昇龍太鼓」を発表し、中学生は自分たちで育てたさつまいもで焼いもの販売を行っています。和泉は小さな地区で、自分たちを表現する場所が少ないです。子供たちが目をキラキラさせながらまつりを盛り上げている姿に嬉しく思います。



農協女性部  
久保田真由美さん



「九頭竜紅葉まつり」は美しい景色だけでなく、食体験も魅力のひとつです。和泉で収穫した秋野菜を使った、揚げたての天ぷらを販売していますが、「これを買に来た」というリピーターさんもいるんですよ。今後も地域一丸となってまつりを守っていききたいですね。



九頭竜楽しみ隊  
新井俊成さん



まつりがはじまった当初は「九頭竜楽しみ隊」という名前ではなく、地元の有志と子供たち向けに、じゃがバターなどを販売していました。現在は手打ち蕎麦の販売を行っています。メンバーにはまつりを通じて、和泉のファンになってくれた地域外の方もいます。



# 実りの秋と冬支度

あれもこれも、お店へ行けばすぐに買える時代。でも、季節の移ろいを楽しむ和泉の人は、秋になると冬の支度をはじめます。



雪深い土地で豊かに暮らせるのは、長い冬をしのぐための知恵と伝統があるから。

冬の間、雪に閉ざされることが続く和泉地区では、秋の深まりと共に、本格的な冬支度が始まります。冷蔵や冷凍の技術が発達していない時代には、作物が採れない冬の貴重な食糧として、食品を長期間保存するために、家の床下にイモ穴（野菜類の貯蔵庫）を掘るなど、先人たちはさまざまな方法で、冬を乗り越えてきました。暮らしが便利になった現在も、冬支度を行う家庭は多く、軒下にたくあん用のだいこんを天日干しする風景や、干し柿を作るための柿すだれをよく目にします。

寒さや雪への備えも重要。薪ストーブのある家庭では大量の薪を置いています。大きな除雪車が並ぶ姿は和泉ならではの光景です

地区の大半が標高400m以上の高地にあり、福井県でも特に寒さの厳しい和泉。春に収穫した山菜を干して乾物にしたリ、薪ストーブに使う薪づくりも春から行うなど、ここに住む人たちは豊かな自然の恵みを活かしながら、常に次の冬に備えています。



# いずみで暮らせて

約2300世帯が住む和泉地区。  
この内訳をみてみると、約3割が  
1ターンのUターンという驚きの数です。  
和泉にUターンを決めたご兄弟に  
和泉を選んだ理由をおうかがいしました。



地域の足である「大野市 市営バス」の運行を行う野尻友也さん(左)と野尻一也さん(右) ご兄弟

和泉を東へ西へと走る市営バス。出発はJR九頭竜湖駅前。学校から遠い地域に住む中学生や診療所に向かう地域の方々が利用しています



## 和泉を東へ西へと走る市営バス。ハンドルのをにぎるのは二人の兄弟。

和泉地区の住人の足として、また、児童・生徒の通学用として定期運行する「大野市 市営バス」。大野市から委託を受け、このバスを管理するのが「いずみタクシー」です。

地域唯一のタクシー会社の始まりは1966年(昭和41年)。現社長の野尻友也さんで5代目になります。この会社は血縁関係にこだわらず、和泉に住む人が代々社長を務め、地域で事業継承してきました。

朝1便のみの和泉線(JR越前大野駅まで)を含め、前坂線、中竜線の3路線を走る市営バス。野尻友也さんとともにバスの運行を行っているのが、兄の野尻一也さんです。

二人とも高校生まで和泉で生活していましたが、学業や仕事のため、一時は県外へ。福井県内の企業に勤めていた時期も十数年ありましたが、住まいは和泉ではありませんでした。

「タクシー会社を継いでほしい」と、父から相談を受け10年前にUターンしました。僕が子どもの頃以上に少子化が進んでいるので、二人いる子供たちの教育環境のことを考えると悩みましたが、僕自身は車関係の仕事に就いていたこともあり、会社を継ぐことに迷いはありませんでした」と友也さん。

心配していた子供たちも、今ではすっかり和泉っ子に。のびのび育っています。



1日の終わりに必ず行う洗車

かつて「中竜鉱山」があった中竜方面を走るのが、中竜線。  
車窓から見える美しい景色は夏の「九頭竜スキー場」



和泉の奥の奥へ走ると  
小さなバスがひらひらと  
大自然は地域の宝物



【前坂キャンプ場】方面に向けて走る前坂線。幻の国鉄  
【越美線】の未成区間を旅するならこの路線で

地域の住民の足としてだけでなく、  
観光客に和泉をPRする役割も果たしたい。

片や一也さんが和泉にUター  
ンしたのは、今から約1年前の  
こと。友也さんの「会社を手伝っ  
てほしい」というひと言がきっ  
かけでした。

「僕の場合、子供はすでに成人  
しているの、Uターンの迷  
いはありませんでした。幼い  
頃から山や川で遊ぶのが好き  
だったので、子供時代に戻った  
気分です。休日には釣りに行っ



たり、畑仕事をしたり、充実し  
た毎日を過ごしています」  
お年寄りの利用が多い市営  
バス。元介護職員だった一也さ  
んが大切にしているのは、お客  
さんとの会話。「今日は調子ど  
うや」と一人ひとりに声をか  
け、体調チェックも行っている  
そう。  
バスの運行時間以外は、観光  
客の送迎も行う二人。福井県  
と岐阜県を結ぶはずだった幻の  
国鉄「越美線」の未成区間をタ  
クシーと徒歩で乗り継ぐ鉄道  
ファンもいるようで、「道中は  
地元民だから知る穴場も案内  
もしています」と友也さん。  
と言いつつも、「青春時代は和  
泉が嫌いで、早く出ていきたかっ  
た」と当時を振り返ります。

「山ばかりで、空が狭い和泉  
が大嫌いでした。兄は自然が  
大好きな人なので、そんな思い  
はなかったようですが、僕は早  
くここから出たかった。でも、  
この仕事に就いて思ったのが、  
あの頃も今も地域の人に支えら  
れているということです。みん  
なが知り合いたいな小さなエ  
リアですから、仕事もすぐに馴  
染むことができました」

国が指定する過疎地の中の1  
つに数えられる和泉地区。一度  
離れたからこそ見えてくる地域  
課題があると二人は言います。

「人口が増えればいいわけでは  
ないと思います。まずは和泉に  
来てくださる方を増やすのが大  
切。九頭竜湖駅を旅の終着点に  
するのではなく、知らない和泉  
を僕らが案内し、そしてまた和  
泉に来てもらう。ファンを作る  
ことが大切だと思います」と友



也さん。実際、ポテンシャル溢  
れるこの地に魅了され、移住し  
た友人もいるそうです。  
「ここでやりたいことは、まだま  
だいっぱいある」と語る二人。  
今後に期待が膨らみます。

バス・タクシー運転手

野尻 友也 さん (Uターン10年)

野尻 一也 さん (Uターン1年)

共に「いずみタクシー」勤務。和泉地区へ  
のUターンを機に、大野市から委託を受  
ける「大野市 市営バス」のバス運転手に。